



Elias Muster
エリアス・ムスター



ズートシュタイヤーマルクでバイオダイナミックを実践する両親のもとで育ったエリアス・ムスターにとって、ブドウ畑とワインセラーは幼い頃から身近な存在であった。2019年、ゲルバー・ムスカテラーの畑の一部を両親が譲ってくれ、その年の終わりには300Lの樽を満たすだけのブドウを収穫する。当時はブドウ栽培学校に通いながら、そのプログラムの一環でブルゲンラントやフランスのワイナリーで研修を重ね、知見を広げていった。2021年にはさらに畑を引き継ぎ、現在は約1haを管理。2022年にはセラーを整備し、古樽で時間をかけて熟成させることで、畑に宿るエネルギーを損なうことなくワインへと導こうとしている。オーボク土壌の畑とその周囲の景観がもつ美しさを、そのまま残していくこと。その一点に向かい、静かに歩みを重ねている。

		○Coprivus コプリヴス		
	畑	品種：ソーヴィニオン・ブラン 植樹：2002年 位置：標高460m、南東向き 土壌：オーボク（石灰、泥灰土）	醸造 マセレーションなし 木製樽（228L）で醗酵 木製樽（228L）で18か月以上熟成	備考 「Copriva」という言葉は、彼ら住む山の山頂をまたいですぐのスロベニアの言葉で「イラクサ」を意味する。エリアスはスロベニアとの強い結びつきを感じており、ソーヴィニオン・ブランの、エネルギーや緊張感、そしてハーバルな風味と、バイオダイナミック農法の調合材としても活躍するイラクサを結びつけ、ワイン名とした。
		○Omnia オムニア		
	畑	品種：ゲルバー・ミュスカテラー ソーヴィニオン・ブラン 植樹：2002年 位置：標高460m、南東向き 土壌：オーボク（石灰、泥灰土）	醸造 マセレーションなし 木製樽（500L）で醗酵 木製樽（500L）で18か月以上熟成	備考 「Omnia」はラテン語で「すべてを一緒に」を意味する。ゲルバー・ミュスカテラーとソーヴィニオン・ブランは、同一の区画から同時に収穫され、その後も同じ樽で压榨・醗酵・熟成が行われる。